

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

平成 30 年 8 月 31 日現在

今月の重点活動

■モモ モモ「飛騨おとめ」PR試食販売会を高山市内にて開催

8月11日（土）、県オリジナルのモモ品種「飛騨おとめ」の本格的出荷にあわせて、高山市内2店舗のスーパーにて、PR試食販売会を開催した。

当日は、飛騨高山高校山田校舎の高校生と関係機関が一体となり、今年度収穫された「飛騨おとめ」を振舞い、PRを行った。試食会では、高校生が作成した「飛騨おとめ」の特徴を記載したチラシの配布や「飛騨おとめ」に関するアンケートを実施し、消費者の意見を収集した。販売会では、管内生産者が生産した新鮮な果実が販売された。

PR試食販売会は今年で3回目となり、「飛騨おとめ」の飛騨地域における認知度も年々上昇しているように感じられた。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、今回のアンケートで得られた結果を踏まえて、「飛騨おとめ」の販売活動を支援していく。



【PR試食販売会の様子】

多様な担い手づくり

■担い手 青年就農給付金対象者の就農状況確認を実施

飛騨市・高山市において、青年就農給付金の給付対象者に対して就農状況の確認調査を行った。対象者は飛騨市7名、高山市32名であり、各市の担当者、飛騨農林事務所（農業振興課・農業普及課）、JAと協力して、本人に経営開始計画に対して現在の作目の生育状況をはじめ、経営規模・生産量・売上高・ほ場の現状・帳簿の管理状況等を聞き取り、今後の課題も確認した。

計画以上の生産量や売上を伸ばしている就農者も多いが、計画通りに進んでいない就農者に対しては、今後生産技術、経営管理などの面で支援が必要である。



【就農者から聞き取り確認】

■飛騨地域トマト研修所 3期生のハウス資材が就農予定圃場へ…経営開始準備を加速

JAひだ飛騨地域トマト研修所では、次年度に就農する予定である3期生の就農予定圃場に、パイプハウス資材が納品された。

就農時の経営規模や導入資材は、研修生と関係機関担当者ら（農業普及課含む）とで協議を重ねて計画されたものであり、研修生の意向や経営目標が反映されている。

研修生はこれまでハウスの溝掘りや杭うち等のハウス建設準備を実施してきており、今後は研修所（農家研修先）でのトマト栽培とハウス建設を平行して進めていく。

農業普及課ではその進捗状況を把握し必要な技術情報を提供するとともに、関係機関との連絡を密にして円滑な就農にむけた支援活動を継続する。



【パイプハウス資材の納入状況】

■新規就農 第3回吉城・高原地区夏秋トマト新規就農者勉強会を開催

農業普及課では、夏秋トマトの栽培経験が5年以下の新規就農者を対象に、JAひだトマト研修所において8月14日（火）に勉強会を開催した。

勉強会では、芯止めの時期と肥培管理について、トマトの健康状況を判断する能力を身に付けるため、先輩トマト生産者や営農指導員、関係機関からアドバイスを受け、高度な栽培技術の習得に取り組んだ。また、新規就農者同士のコミュニケーションも図った。

農業普及課では、今年度6回の勉強会を計画しており、今後もトマト研修所、JA等関係機関と連携しながら、新規就農者の夏秋トマト栽培技術向上に向けた指導と、産地の活性化を図る予定である。



【勉強会の様子】

■GAP 農業高校によるGAP認証生産者の視察研修

岐阜農林高校の園芸科学科および流通科学科の生徒がグローバルGAP認証を取得している(有)橋場農園を訪れ、GAP認証にかかる取り組みについて視察研修を行った。

橋場社長および担当者によるこれまでの取り組み説明および選果場等の見学を行い、併せて、農業普及課からGAPの本来の意義や取り組みをすすめるポイントについて説明した。生徒や先生からの熱心な質問も多く、有意義な視察研修であったと感じられた。今後も将来の担い手のGAPへの理解が深まり、取組が広がるように支援を継続していく。



【選果場見学の様子】

■ほうれんそう 若菜会現地研修会の開催

8月6日（月）、飛騨ほうれんそう部会の若手生産者の組織「若菜会」の現地研修会が開催された。当日は30名程度の若手生産者が参加した。農業普及課では、事前に若菜会役員及びJA担当者と研修会場等の打合せを行い、丹生川町の生産者圃場及び作業場を見学することとなった。管内でもトップクラスの単収を上げ、効率良く管理している生産者の状況を見学し、大いに参考になったものと思われる。また、普段なかなか顔を合わせる事のない若手同士の交流の場にもなり、有意義だった。

今後は市場担当者との意見交換会なども計画しており、農業普及課では、今後の活動に対し、支援を継続していく。



【圃場視察の様子】

売れるブランドづくり

■水稲 「ひだほまれ」の高品質、安定生産を目指して

吉城酒米生産組合では酒米品種「ひだほまれ」を生産しており、8月21日（火）に本年の生育状況を確認、今後の栽培管理について意識統一を図るため、現地研修会を行った。

農業普及課からは、本年の梅雨明け以降の異常高温を踏まえ、今後の栽培管理上の注意事項について指導、また基肥一発肥料の実証ほ生育調査結果等について説明した。また、中山間農業研究所からは、本年の試験研究について説明があり、活発な意見交換が行われた。

今後は実証ほの品質面を中心とした調査を行い、次年度に向けた各種支援を行っていく。



【現地研修会風景】

■水稲 猛暑で出穂期が早まっても、予測の防除適期は的中！

高山市清見町では、清見営農組合が斑点米カメムシ防除を行っている。防除に当たっては、出穂期が基準になるが、最近では平年より早まる傾向がある。農業普及課は主な品種・地点で、移植日と幼穂長によって、出穂期を予測し、最適な防除日を設定している。今年は7月11日（水）に各地点・各品種の幼穂長を調査したところ、出穂期が例年よりかなり早まっていることがわかった。実際の出穂期も猛暑で予測通りかなり早くなり、最適な時期に防除ができた。同朝日町でも同様に、農業普及課の出穂期予測により最も適切な防除時期を決定している。



【調べれば出穂期は予測可！】

■飼料イネ 高品質な飼料生産に向けて適期に収穫を

飛騨市古川町中野地区の集落営農法人みのりの里中野は地元の畜産農家向けにイネWCSを栽培している。

8月23日（木）、みのりの里中野の他、飛騨市役所、農業革新支援専門員、農業振興課畜産係が参集し、イネWCSの収穫時期について検討した。前年産の飼料分析結果を元に昨年より収穫時期を遅らせたほうがより良質な飼料となることを確認した。農業普及課からは事前に調査したほ場ごとの出穂状況を提示し、現地ほ場で収穫適期について指導を行った。

みのりの里中野のWCS用水稲は、品種や肥培管理により生育が異なるため、今年度も飼料分析を実施し、関係者が一体となって良質な飼料生産を目指して行くこととなった。



【ほ場で生育状況を確認】

■モモ 高品質な飛騨桃の出荷販売に向けて

当地域では県内で最も多く桃の生産を行っており、収穫された果実は『飛騨桃』として流通し、古くから盆の進物として生産・販売されている。

8月15日（水）に、上広瀬果樹組合では飛騨桃の一品種である“昭和白桃”の目揃え会を行い、当日は品種特性に則した規格の桃を生産者が手に取り、細かい確認が行われた。

また、16日（木）と19日（日）には糖度検査も実施され、地域全体の品質について組合主体で調査・確認を行った。農業普及課は、目揃え会当日に本年の果実の特徴について情報提供を行い、また糖度検査の実施支援を行った。

■夏秋トマト 高山蔬菜出荷組合トマトほ場審査の実施

高山蔬菜出荷組合トマト部会の生産者 54 名から 10 名が地区推薦され、役員や飛騨農協とともに、生育状況や管理状況などについてほ場審査を行った。

今年は7月初めの長雨と夏の猛暑により管理が難しい状況ながら、各ほ場で非常に良い管理状況であった。順位付けしたほ場の生産者は選果場にて表彰することで、生産の励みとするとともに、周囲の生産者にも今後の管理の徹底を促す。

最上位の生産ほ場は飛騨全体の審査へ選出する。



【ほ場審査の様子】

■ほうれんそう 産地内着荷調査による品質向上

8月2日（木）、JAひだ本店にて飛騨ほうれんそうの産地内着荷調査が実施された。この調査は、管内の各集荷場に出荷されたほうれんそうを2日間室温におき、スーパー等店頭に並んでいるほうれんそうの状態を産地で再現し、ズルケや葉枯れ等の事故・クレームにつながる問題がないか、産地として自主的に品質確認することを目的としている。農業普及課では、確認作業の支援と、品質の良いほうれんそうはどのような管理（遮光・灌水）を行っているかの調査も併せて行った。

今年は梅雨明け以降猛暑が続き、ほうれんそう栽培が厳しい環境下にあったが、事故・クレーム品を出さないことが産地の信頼維持において最も重要となる。農業普及課としてこのような取り組みを今後も支援していく。



【JA職員(左)と品質確認】

■メロン 飛騨メロン共進会を開催！

飛騨メロン研究会では、更なる飛騨メロンブランドの躍進のため、毎年「飛騨メロン共進会」を開催して品質向上を図っている。

今年度は8月3日（金）に開催し、飛騨農林事務所副所長を審査員長に審査が行われ、甲乙つけがたい出品物の中から、最優秀賞1名、優秀賞4名が選ばれた。

飛騨メロンは、贈答用として需要の高いお盆前から出荷を行うことや、冷涼な飛騨の気候で生育するため高糖度で良食味のメロンであることから、市場評価が高く高単価で扱われている。農業普及課では今後も品質向上に向けた飛騨メロン研究会の取り組みを支援する。



【表彰式の様子】